

漂著石神論計画

折口信夫

青空文庫

- 1 柳田先生の民俗学的研究上、一大体系をなす石信仰。今新たな回顧の時に達した。
- 2 諸国海岸に、古代より神像石カムカタイシの存在した事実。
- 3 神像石の種類。
 - a 定期或は、臨時に出現するもの。
 - b 常在するものト口、海岸から稍隔つた地。
 - 「ハ、海中の島又は、岩礁。
- 4 神像石の様態。
 - a 唯の石であるもの。
 - b 神の姿を、想見せしめる程度のもの。
- 5 この論は、此を出発点として、漂著ヨリ神信仰の中、石神の件を考へる。
- 6 3のイ・ロ・ハは、海岸に出現する形が、最、普通であり、正確なものである。此が、浜を遠ざかる程、村の生活が、山手に移つた事を示す。ロ・ハは、遥拝信仰發達の一過程であるが、其多くは、神幸の儀式を行ふ前の、足だまりとなる地点

であつた。

- 7 「遙かの沖にも、石はあるもの。夷御前エビミゼの腰掛け石」の唄。
- 8 腰掛け石と、影向石と。
- 9 五郎投げ石・力持ち石。
- 10 村岡五郎——相州の巨人伝説。
 - a 曾我。
 - b 鎌倉。
- 11 石つぶて。
- 12 おひし。
 - a 生石
 - b 大石
- 13 一夜、忽然出現。
- 14 石を以てする神出現の証——地蔵。
- 15 石出現の夜の行事。
- 16 石と、成年戒と。

17 印地打ちと、成年戒と、石の洗礼と。

18 石の旅行性（自力ならぬ）・植物旅行性。

19 石の人による旅行。

20 石の分霊観。

21 人にとられると同時に、大きくなる。

育て主を待つ。之が極ると、急に大きくなる。

「翁

a 大きくなる者——育み人ト

「少女——後、夫婦

b 小さいまゝの者

22 育み人有勢な場合。

a 少彦名——つき物

b 天日矛の石及び珠——夫婦

23 より石と、巫女と。

24 玉の歌。

a 魂関係

b より来る玉

- 25 玉は石か、貝か。
- 26 装身具以外の玉。
- 27 玉がしはを、石とする説。
玉を盃に入れること。
- 28 海祇の玉献上と、降服。
- 29 玉の大きくなる事。
- 30 世襲の玉と、その増殖した物を伝ふる家系。
- 31 玉を貰ふ事が、魂を貰ふことになる。——みたまのふゆ。
- a 定期 歳暮
- b 臨時 みたま賜ふ
- 32 玉その物から、魂を托する物。みまのからに変化。
- 33 玉よる磯。
- 34 やぼさのより処。

- 35 対馬正式。
- 36 杵岐のやほや。
- 37 やほさから、鬼塚へ。
- 38 鬼塚と、より神と。
より神と称する物。
- a 建て物——海
「イ、巫女の憑り神
- b 民俗卜口、盲僧の役神
「ハ、陰陽師
- 39 神功皇后の石。子負の原の鎮懐石。
杵岐の鎮懐石（石を栓として置く）。
- 40 石数増殖。
- 41 石成長。
- 42 鎮懐石の意義と、成女戒と。
- 43 鎮懐は、鎮魂の一方面であること。

- 44 鎮懐石の他処より来る事。
- 45 望夫石の問題。
- 46 親友中山太郎さんの考証。
- 47 人や動物の石になり、植物の石になること。
- 48 三宝絵詞・今昔物語では、動物の過去生を説いて、経を聴く為の仮身だと説く。未
来生を説くよりも、此時代の仏的色彩が出てゐる。
- 49 此と共に、未来転生を説いて、神道（仏法一派として）に入る事を言うたに違ひな
い。
- 50 犬は固有種の少数の外は、猫と同じく、外来のもので、猫よりは遙かに、早かつた
らしい。
- 51 異郷の叡智を受けた、敏感な生物。
- 52 人に犬姓を与へた、播磨風土記の例（告ノリ「つげだらう」首）
- 53 常世長鳴鳥式の智慧。
- 54 沖繩の各由来記には、犬の神になつた話が多い。それは、石になつたことである。
- 55 いづれ、仮死の状態を考へるのだらう。

- 56 常世の所屬たらしめる為の洗礼には、石の形を經過せしめる。
- 57 大国主の赤猪石。
- 58 出雲の国造の、猪形の石につけて、菱根池に水葬せられたこと。
- 59 岡となる。大丘——石。
- 60 蚕の化成した、日女道^{ヒメヂヲカ}丘。
石と山との関係。
- 61 猪の石。
- 62 犬その他のとてむ。
- 63 印南郡益氣^{ヤケ}里斗形山あつて、石橋がある。
天との通路だ。天の八十人上下した。
- 此は、動物以外の第二義式化成。
- 64 よみの国へ行く巖窟。
- 65 彼岸国からの印象。
かし石の穴の雫の、柱石となつた事。

青空文庫情報

底本：「折口信夫全集 3」中央公論社

1995（平成7）年4月10日初版発行

底本の親本：「『古代研究』第一部 民俗学篇第二」大岡山書店

1930（昭和5）年6月20日

初出：「民俗学 第一巻第一号」

1929（昭和4）年7月

※底本の題名の下に書かれている「昭和四年七月「民俗学」第一巻第一号」はファイル末の「初出」欄に移しました。

※複数行にかかる中括弧には、けい線素片をあてました。

入力：門田裕志

校正：仙酔ゑびす

2007年4月8日作成

2007年6月3日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

漂著石神論計画

折口信夫

2020年 7月18日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>